

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第	号
------	-------	---

氏 名 肥田 佳美

論 文 題 目 地域で生活する高齢者における  
嚥下機能と口腔細菌叢の関連

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 池松 裕子

名古屋大学教授 本田 育美

名古屋大学教授 西谷 直子

## 論文審査の結果の要旨

高齢化の進展で、高齢者の誤嚥性肺炎の増加が指摘されている。嚥下障害のある高齢者は、誤嚥性肺炎を引き起こす口腔細菌数が増加する可能性が高くなる。嚥下機能と口腔細菌との関連は、病院や老人ホームの高齢患者での研究が一部存在するが、地域在住の高齢者での研究は見当たらない。そこで、地域で生活する高齢者の嚥下機能と口腔細菌の関係を調べることを本研究の目的とした。

対象は、地域で生活する 70 歳以上の高齢者で、質問紙調査で嚥下機能の低下が疑われる 139 人とした。本研究では唾液を採取して、口腔細菌叢から嫌気性菌（Prevotella 属菌及び Fusobacterium 属菌）と好気性菌を調査した。嚥下機能は、30mL 水飲み嚥下機能テスト(WST)で評価した。歯科衛生士による歯と口腔の健康状態の評価、及び自記式質問紙調査も実施し、口腔細菌と嚥下機能との関連について検討した。

本研究の知見と意義は要約すると以下のとおりである。




- 1.嚥下機能は、対象高齢者の 2.9%に異常、47.5%に異常の疑いが認められた。
- 2.嚥下機能の低下と口腔内嫌気性菌の Prevotella 属菌の増加に関連が認められた。
- 3.口腔内嫌気性菌の Fusobacterium 属菌・好気性菌は、嚥下機能との関連は認められなかった。

本研究は、地域在住高齢者において、嚥下機能の低下と口腔内 Prevotella 属菌の増加の関連を示した。Prevotella 属菌の増加は、特別養護老人ホーム居住者を対象にしたコホート研究で、肺炎関連死の重要な危険因子であることが報告されている。本研究の結果は、嚥下機能の低下した高齢者では、Prevotella 属菌が増加して、誤嚥性肺炎を発症するリスクが高くなる可能性を示唆した。また、この結果は、地域在住高齢者の嚥下機能の維持・向上が誤嚥性肺炎のリスクを減らす可能性を示唆しており、公衆衛生看護において重要な知見を提供した。

本研究の主要部分は、Aging Clinical and Experimental Research (IF=2.331)に掲載予定である。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	肥田佳美
試験担当者	主査	名古屋大学教授	池松裕子	
		名古屋大学教授	本田育美	
		名古屋大学教授	西谷直子	




(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 口腔細菌叢の嫌気性菌 (Prevotella属菌及びFusobacterium属菌)、好気性菌と肺炎発症との関連について
2. 嚥下機能の低下とPrevotella属菌が増加する関係について
3. 誤嚥性肺炎リスクを減らすために、看護ケアに生かせる点について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。

## 学 力 審 査 の 結 果 の 要 旨 お よ び 担 当 者

報 告 番 号	※ 乙 第	号	氏 名	肥 田 佳 美
学力審査担当者	主査	名古屋大学教授 池松裕子 	名古屋大学教授 本田育美 	名古屋大学教授 西谷直子 
<p>(学力審査の結果の要旨)</p> <p>専攻の学術について、本大学院博士課程（看護学）修了者と同等以上の学力を有するか否かについて、学力審査を行った結果、同等以上の学力と見識を有するものであると認定する。</p>				